

業務の新聞

第62号

2020年 8月 18日

社長からのメッセージ

7月30日「社員の皆さんへ」と言う社長からのメッセージが発せられました。皆さんお読みになりましたか？皆さん読んでどのように感じましたか？「会社やばいんじゃない」「客少ないもんね」「どうなるんだろう」「株価下がってるし」…。

「第1四半期決算」が現実的な数字として出され、混乱しているのが本当のところかもしれません。

「第1四半期決算」によれば、営業利益は単体で1470億円の赤字（営業収益・運輸収入が9期ぶりに減収。第1四半期決算として過去最低）、新幹線・在来線輸送量の大幅な減少…。新型コロナウイルスがJR東日本に与えた影響は数字以上なのかもしれません。

社長からのメッセージでは、「コロナ前には戻らないことを前提に…。」「変革2027で描いた私たちの未来の実現…。」「心を一つにして取り組んでいく。」「収入とコストの構造変革が必要…。」「安全確保を前提に大胆にコストを見直す。」としています。

さらに、「従来からの鉄道ありき」でものを考えるのではない。」

「“ヒト起点”でお客様や地域の皆様の“求めているもの”を考える。」「仕事の進め方・働き方も柔軟に…。」「社員の活躍のステージを拡大する」と続きます。メッセージの最後には、「現状にとどまることなくチャレンジを続けることがこの難局を乗り越える唯一の道だ」と終えています。

皆さん、どのように感じましたか？「メッセージ」を現実に変換するのは私たちです、シッカリと考え、皆さんの声を聞かせて下さい。

職場では？！

“社長からのメッセージ”が発せられて以降、皆さんの職場では変化がありましたか？

これから、職場はどのように変化していくのでしょうか？職場の掲示板に貼られているだけで紙の色が変わっていくのでしょうか？

“社長からのメッセージ”を現実に変換するのは私たちです。お客様と毎日接しているのも私たちです。列車を毎日、安全正確快適に運行しているのも私たちです。

真剣に職場からこの会社の将来を考えなければ、“変化”に飲み込まれることになります。『こんなはずじゃない』と後悔しても時は戻りません。

現場長さんや管理者の方も交えてJRや自分の職場の現状・未来を話すことから始めませんか？

職場では？！

「休日出勤できませんか？」毎日職場で聞かれるとのやり取りです。その職場ではヨビ者が10名しかおらず「見習いが1本になるまでは大変だ」と勤務作成者は頭を抱えています。

“社長からのメッセージ”では、「仕事の進め方・働き方も柔軟に…。」「社員の活躍のステージを拡大する」などとしています。各職場の実情とは大きくかけ離れているようです。社長はじめ経営幹部はこの現実を知っているのでしょうか？些末なこと・一過性だからと“放置”なののでしょうか？

電車は毎日多くのお客様とその生活を運んでいます、その主役の私たちも人間です。私たちの生活も考えない会社のチャレンジは成功しませんよ。